

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。遡及調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例をあわせると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV: 127、HCV: 71、HEV: 2、HIV: 2、CMV: 3、ヒトパルボウイルスB19: 3、細菌: 52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV: 10例、HCV: 1例、HEV: 1例、ヒトパルボウイルスB19: 3例であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本ヘヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
251	2006/10/25	60633	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>8</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>8</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するという事は、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイビーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性で、既知のVesivirusと関係があった。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合には供血を続けることができるというエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。遡及調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例をあわせると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV: 127、HCV: 71、HEV: 2、HIV: 2、CMV: 3、ヒトパルボウイルスB19: 3、細菌: 52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV: 10例、HCV: 1例、HEV: 1例、ヒトパルボウイルスB19: 3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃導入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
252	2006/10/25	60634	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	60632に同じ
												マラリア	CDC 2006年6月30日	60632に同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60632に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60632に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60632に同じ
												バルボウィルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60632に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60632に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60632に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60632に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60632に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60632に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60632に同じ
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60632に同じ
253	2006/10/25	60635	日本赤十字社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60633に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60633に同じ
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60633に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60633に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60633に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60633に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60633に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60633に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60633に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60633に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60633に同じ
254	2006/10/25	60636	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60633に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60633に同じ
												パルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60633に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60633に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60633に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60633に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60633に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60633に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60633に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60633に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60633に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60633 と同じ
255	2006/10/25	60637	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	60632 と同じ
												マラリア	CDC 2006年6月30日	60632 と同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60632 と同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60632 と同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60632 と同じ
												バルボウィルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60632 と同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60632 と同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60632 と同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	60632に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60632に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60632に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60632に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60632に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60632に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60632に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60632に同じ
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60632に同じ
256	2006/10/25	60638	日本赤十字社	白血球除去人赤血球浮遊液	白血球除去人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	60632に同じ
												マラリア	CDC 2006年6月30日	60632に同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60632に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60632に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60632に同じ